

メンター通信 (VOL. 16)

平成 25 年 4 月 2 6 日

新年度が始まりました。24 年度最後のまとめとして通信 16 号をお届けいたします。

① メンター活動報告(1~3月)

	活動内容	延べメンター数	対象者数
1月12日	応用研修Ⅳ 一日目(メンターについて)	28名	
1月13日	応用研修Ⅳ 二日目(きょうだい・祖父母について、演習)	29名	
1月18日	サポートブック研修(基礎:県センター主催)	1名	19名
1月26日、27日	ペアレント・メンター養成研修(ベーシック:県センター主催)派遣 リソースブック解説 ロールプレイ	1名 3名	22名
2月10日	保育士連続研修③ファシリテーター	8名	18名
2月15日	サポートブック研修(基礎)	3名	18名
2月20日	事例検討会	14名	
3月23日、24日	ペアレント・メンターフォローアップ研修 サポートブック作成リーダー研修(沖縄へ派遣)	1名	20名

② 応用研修Ⅳ報告

毎年恒例になりつつある【応用研修Ⅳ】、今年是一日目に【ペアレント・メンターについて】と題し公開講座を、二日目には【さまざまな家族への支援】としてきょうだい・祖父母についての講義のあと、演習を行いました。今回も愛知県だけでなく各地のメンターさんにご参加いただきました。

(1)参加者数

愛知県下メンター22名(うち、一日目のみ2名、二日目のみ2名)、県外メンター9名(うち二日目のみ1名)、見学延べ11名、公開講座参加者53名の参加をいただきました。

(2)今回のねらい

今回の研修では、全国のメンターの方々に、これまでの養成研修、応用研修などで得られた知識やスキルを発揮していただく実践の機会を、できるだけ増やしていくことを目的とし、一日目を公開講座として、各地の特色ある活動の様子をご報告いただく機会を設けました。

二日目には、家族の中の課題に取り組むということで、きょうだいと祖父母に関する相談を取り上げました。これらは各相談者ごとの、そして各メンターごとの個別性が極めて高い相談の領域であり、メンターへの相談ニーズも高いテーマです。多様な家族の在り方に対応できるように、グループ相談の形で実習が企画されました。

(3)公開講座について

公開講座には、応用研修の参加者以外に53名の方にご参加いただきました。保護者のほか、教育、保育、医療、福祉のさまざまな支援者の方にご参加いただきました。

今回の公開講座のテーマは「ペアレント・メンター」についてと題し、3名の先生方から基礎的な話からそのバックアップ体制、課題などのお話をいただいた後、実際活動しているメンターのみなさんから活動発表をしていただきました。それぞれの地域で様々な特色があり、どれもすばらしい活動と厚生労働省 小林真理子先生よりお言葉をいただきました。

つぼみの会 加藤 香

(4) 演習について

今回は、グループ相談の体験学習をおこないました。メンター養成研修フォローアップコースで学んだ「インシデント・プロセス法」のロールプレイ演習です。普段からグループ相談会などで、インシデント・プロセス法を活用している方もいれば、フォローアップコース以来やったことがないという方もいました。司会や記録者、事例提供者にチャレンジしてみたり、事例のアイデアを考えてみたり、他の人を聞くことに一生懸命だったり。参加者には、それぞれの学びがあったようです。体験を通して学んだことは、聞いたり見たりするよりも、身につきます。今後の応用研修でも、体験学習の演習を取り入れていきたいと思えます。

筑波大学大学院 原口英之

(5) 参加者の感想(抜粋)

【メンターより】

- ・ロールプレイを通してメンター活動の楽しさ、和気藹々としたものを得たように思いました。
- ・実践するには、こういう研修を受けていくことそんな基本を思い知った時間でした。
- ・受講のたびに思うが、メンターの有意義さを感じる。自分自身基本を振り返る機会になります。

【公開講座参加者より】

- ・親目線の内容でほっとした。楽しく取り組んで見えて、自分も仲間に加われそうな勇気がわいてきた。
- ・わかりやすく具体的でよかったです。また話をされている方がいきいきされていると感じました。
- ・キャラバンは言葉では聞いたことがありましたが、はっきりとした活動内容は知らなかったのこんな活動も大切だなと感じました。

参加いただきました皆様方、ありがとうございました。

平成 25 年度においても日本財団さまの助成をいただくことができ、
応用研修Ⅴを平成 26 年 2 月 15 日(土)～16 日(日)で開催いたします。
次回もみなさまの参加をお待ちしております。



====★=====★=====★=====★=====

③ペアレントメンター養成講座(ベーシックコース)開催報告

平成 25 年 1 月 26 日(土) 27 日(日)に刈谷市産業振興センターにてベーシックコースを開催しました。この講座はあいち発達障害者支援センターの主催、名古屋市発達障害者支援センター・名古屋大学大学院医学系研究科 障害児(者)医療学寄附講座の共催で、JDD ネットあいち、NPO 法人愛知県自閉症協会・つぼみの会、NPO 法人アスペ・エルデの会、あいち LD 親の会かたつむり、NPO 法人えじそんくらぶなごや親の会の後援をいただきました。つぼみの会 7 名、アスペ・エルデの会 10 名、かたつむり 4 名、えじそんくらぶ 1 名の合計 22 名の方が参加されました。

自己紹介ではロールプレイが初めてなので心配だとお話しされる方が多くいらっしゃいました。しかし実際のロールプレイの場面では緊張されながらも相手の話をしっかり聴こうという姿勢で臨まれていました。研修後のアンケートでは大変勉強になった、とても有意義だったといった感想が寄せられています。

吉川先生にはリーダーインストラクターとして、オリエンテーションや相談技術の講義を始め全体の統括をしていただきました。また、公開講座でもある自閉症、ADHD、LD についての基礎講座では、4 時間半にわたりお話ししていただきました。インストラクターは発達障害研究所の竹澤先生、名大の大沢先生、名古屋市と愛知県の発達障害者支援センタースタッフ、ペアレントメンターさんも愛知県内の方と、愛知県内の人材でベーシックコースを開催することができました。このように愛知県内のメンター活動は層が厚くなってきています。拙い運営でしたが皆様のご協力のもとにベーシックコースを終えることができました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

元あいち発達障害者支援センター 小松正明

====★=====★=====★=====★=====

【各地の研修風景から 第6回】 徳島県

今回は小倉先生の本拠地、徳島県です。

徳島県は2010年の養成研修に始まり、小倉先生の下、着々と地固めが進み、毎年の研修、「徳島ペアレント・メンター協会」の設立など飛ぶ鳥を落とす勢いで活性化しています。その徳島県の紹介です。



私が鳴門教育大学に異動してきたのが3年前の春だったのですが、ちょうどその年の秋から徳島県でのペアレント・メンター養成研修が行われ始めました。私自身も初めてペアレント・メンター事業に関わったのがこの徳島での研修だったこともあり(井上先生から本当に突然に連絡があり…笑)、徳島のみなさんと一緒に試行錯誤しながらここまで来たと思っています。そして、少しずつ「徳島ならでは」を大切にしながら考えてきた結果、平成25年4月14日には徳島ペアレント・メンター協会の設立を迎えることができるところまでできました。このペアレント・メンター協会の設立は、メンターさんたちのそれぞれの想いとハナミズキの職員さんたちの強力なバックアップがうまく融合された証だといってもよいのではないかと考えております。まだまだ活動はこれからですが、徳島のペアレント・メンター事業が活用されるように、またメンターさんたちにとっても意義深いものになるように、私も地域の一人の専門家としてしっかりとサポートしていきたいと考えています。

鯛をはじめいろんな魚たち、さつま芋、わかめ、レンコン、すだち…などなど、いろんな食べ物が本当においしい徳島からでした。是非みなさま徳島にも遊びに来てくださいね！

【小倉正義】

徳島県発達障害者総合支援センター ハナミズキの藤井です。徳島では井上先生と小倉先生のお力添えのもと、平成22・23年度に養成研修基礎講座を開催しました。その後加藤さんにもご協力いただき、フォローアップ・応用講座などを経て、平成24年度から16人のメンターさんがハナミズキの事業の中で活動を始めています。現在、メンター協会の立ち上げ・来年度実施するグループ相談会や疑似体験を含めた啓発事業の準備を進めているところです。

徳島には「徳島県自閉症協会」「オーティの会」「あおぞら」「ぱれっと」などの親の会がそれぞれのカラーで活発に活動を行っていますが、ペアレントメンター活動は親の会の枠を超えての連携作りの場ともなっています。これからも、メンターさんが更に活躍できる体制づくりを目指していきたいと思っています。

【藤井加代子】

徳島県は、山と海の自然に恵まれ、人口は約77万人で59万人と鳥取県より少し多く、発達障害者支援センターも鳥取県と同じく「県立」です。私はたしか第一回の養成研修会に参加させて頂いたのですが、親の会の方も同じような雰囲気でもとても親近感を持ちました。徳島県は香川県側と高知県側で文化の違いもあると思いますし、療育センターや大学など相談資源に恵まれている地域とそうでない地域の差が大きいように思います。こういった地理的状況の違いやニーズの違いの中で、メンターさんたちが果たす役割は県内の地域ごとにいろいろな個性が出てくると思います。メンター交流会など全員が集まるのはなかなか大変かと思いますが、ぜひ「メンター活動」をネタに集まって頂き、それぞれの地域での活動を紹介し合ったり、情報交換したりすることで新たな出会いや発見やアイデアが生まれるかもしれません。お互いに地方ならではの結束を武器に活動を楽しめたらと思います。

【井上雅彦】

たしか小倉先生は、井上先生と加藤にメンターの世界に巻き込まれたかと思います(笑)。とある時、和歌山で加藤の連絡に応じて宴会に走ってきて顔合わせをし、翌1月に井上先生の連絡に慌てて会場に着ちゃったのが運の付き…。今やペアレント・メンター研究会の事務局長様にまで上り詰めたエリートです(^^)

(まじめな話に戻りますが)徳島の研修に2011年にお邪魔しました。そこでびっくりしたのが、支援センターの職員総動員で養成研修に向かわれているということ。みんなで盛り上げよう！という気合いをとっても感じました。徳島は、色々なグループがたくさんあり、でも個々のグループでの悩みが共通していてメンターさん同士すごく盛り上がっていたり…グループを乗り越えた関係がとてつもなく蜜だなと感じました。徳島はとてつもなく盛り上げ方がメンターさんも支援者の先生方もうまいな、と思いました。それは阿波踊りの土地だから？ 今度徳島のメンターさんに聞いてみたいと思います。

【加藤 香】

④メンターコメント「北から南から」

一回お休みしましたが、第4回は佐賀の江口さんにおねがいしました。

佐賀県のペアレントメンター事業

佐賀県では、平成19年より厚生労働省の発達障害者支援拠点整備事業で、家庭での発達障害児の家庭支援の手法の一つとして、ペアレントメンター事業を開始しました。

同じ時期にNPO法人それいゆが、アメリカ・ノースカロライナ州でペアレントメンター事業を企画運営しているアン・パーマー氏を招聘し、ペアレントメンターの理解啓発の講演会を開催しましたので、多くの保護者が佐賀での活動の始まりを心待ちにしていました。

(社)日本自閉症協会主催のペアレントメンター養成研修の受講経験者は5名いましたが、その内3名が教師や障害者の支援機関の専門家であり、佐賀県自閉症協会の活動というより、仕事の中で保護者支援に取り組んでいましたので、佐賀県がペアレントメンター事業を開始するにあたり、改めてペアレントメンターの立場と役割を明確にしました。

日頃専門家として、相談業務を行っている場合、どうしても助言や指導になる場合がありますが、ペアレントメンターは、発達障害の子どもを持つ親が同じ経験を通り抜けてきた先輩として、後輩の親の心理的支援を行うもので、あくまで親として話を聞くことであり、専門家としての相談とは、明確に分ける必要があります。

佐賀県のペアレントメンター養成は、座学とロールプレイからなり、ロールプレイは、臨床心理士を養成している大学院の准教授による、アイスブレイク・心理劇・ロールプレイやグループ相談など幅広い研修でした。毎年、新しいペアレントメンターに対する研修会が開催されていますが、前年度までに養成研修を受講したメンターも、フォローアップとして、毎回初心に戻るために一緒に研修を受講し、現在は33名のメンターが養成研修を修了しています。

現在、佐賀県のペアレントメンターの活動は、佐賀県の発達障害児の早期発見・早期療育事業の一環である療育指導教室に子育てサポーターとして参加しています。保健福祉5圏域で1週間に1日・10週間の療育ですが、診断前のお子さんと保護者が参加されており診断へ誘うステップですので、自閉症等の助言や経験を話すのではなく、子育ての先輩として慎重に傾聴しています。10回で参加者が変わるので、慣れるというより参加者を覚えるだけで大変ですが、お子さんの成長を一緒に感じながら、不安の中で手ごたえを感じ、未来へのステップを一緒に登っているようです。療育指導教室には専門のスタッフがいますので、メンターが困ったり不安になったりした時は、その場でフォローしてもらえますので、不安を引きずることがありません。

また、佐賀県自閉症協会の会員外のサービスとして、毎月、保健福祉5圏域で茶話会を開催しており、各メンターがそれにあたっています。

佐賀県の行政の担当者とペアレントメンターの情報交換なども行なわれています。

今後も、行政サービスの中で、ペアレントメンターの活動を継続していきたいと考えています。

江口 寧子

⑥今後のお知らせ

1. 25年度の活動内容について、この通信と一緒に送っています。期日までに必ずご回答いただきますようお願いいたします。
2. 25年度はフォローアップ研修、サポートブック作成リーダー研修を行う予定です。フォロー、サポリーダー研を未受講の方は参加いただきますようお願いいたします。詳細については後日ご連絡いたします。

第 16 回集計をふまえて(吉川 徹先生より)

メンターの皆様、日々の活動お疲れ様です。新年度を迎えて、ばたばたした日が続いているかもしれませんが、皆様にもご家族にもおかわりないでしょうか。

愛知県のメンターの皆様の活動実績が認められ、いよいよ平成 25 年度から、ペアレント・メンターのコーディネイト業務に、県の予算を計上していただくことができました。グループ相談、サポートブック作成会、支援者の研修への協力など、多彩な活動を展開している愛知県のメンターにとって、そのコーディネイト業務の重要性と負担は、ますます大きくなってきています。そこが十分に評価され、予算化がなされたことをとても嬉しく思っています。これまでもメンター活動の中心となって引っ張ってきていただいた愛知県自閉症協会の方々には、引き続きコーディネイト業務のまとめ役を担当していただくこととなりますが、ぜひ多くの方々の力を集めて、愛知県のメンター活動がますます発展していくことを期待しています。

また日本財団の助成を受けて毎年開催してきた、ペアレント・メンター応用研修は、今回で 4 回目を迎え、愛知県のみならず、全国からメンターの皆さんに参加していただける研修になってきています。

今回はなんと言っても、各地のメンター活動の実践報告が圧巻でした。愛知県で特に活発に行われているキャラバン活動やサポートブック作成会の活動の紹介は、改めて愛知県の活動のスケールを実感しました。岡山県のペアレント・トレーニングへのメンターの参加は、専門家とメンターがそれぞれの強みを活かして、一つの活動に取り組んでいる素晴らしい実践です。愛知県ではペアトレそのものがやや低調(?)なだけに、これからの発展に期待したいところです。反響が大きかったのは、山口からのグループ相談活動「カフェ・ドゥ・シンフォニア」の報告でした。都市部以外でのメンター活動はなかなか難しく、どこの地域でも課題になっているのですが、根気よく地盤を広げていく取り組みに頭が下がりました。

二日目には、家族の中の課題に取り組むということで、きょうだいと祖父母に関する相談を取り上げました。メンターの中にも、ご自身が家族の中での困りごとを経験されてきた方が少なくないようで、インシデント・プロセス法のロールプレイは、なかなかの盛り上がりでした。それぞれの家族の持つ課題に対応して行くには、問題解決を意識したグループ相談と、気持ちを支えていく個別相談を、特に上手く組み合わせていく必要があるのかもしれないと感じました。

平成 25 年度も第 5 回の応用研修の企画を進めています。メンターの皆様には、奮ってご参加をいただきますよう、お願いいたします。

愛知県心身障害者コロニー中央病院 児童精神科 吉川 徹

<編集後記>

新年度が始まり、16 号をお届けする時期になりました。加藤家はやっと娘の高校受験も終わり、息子も作業所に入所し、新しいスタートを切っております。皆様の中にも「新」と付く事が多いのではないのでしょうか。

さて、みなさまにお知らせです。今まで 4 年に渡り加藤がこの業務を行ってまいりましたが、加藤が愛知のメンター業務を担当するのはこれで最後となります。今まで長年に渡りこの通信をお読みいただきありがとうございました。加藤は愛知県のメンター業務から離れることとなりますが、今後は新コーディネーターさんを中心により一層の活動になるかと思えます。今までお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げますとともに、今後とも愛知県のペアレント・メンター事業へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

発行：愛知県ペアレント・メンター等活動推進連絡会

編集：特定非営利活動法人 愛知県自閉症協会・つぼみの会

〒460-0013 名古屋市中区上前津 2-14-25 上前津中央マンション 202 号

TEL/FAX 052-323-0298 E-Mail: tubomi-aa@nifty.com

編集担当者：支援部 加藤 香